

GLOBAL VOYAGE

〔グローバル ヴォヤージュ〕

August, 2017
Vol. 3

特集

楽園のもうひとつの姿

ガイドブックに
載つていなハワイへ

第二特集

世界三大仏教遺跡を巡る

〔発行〕(株)ジャパングレイス

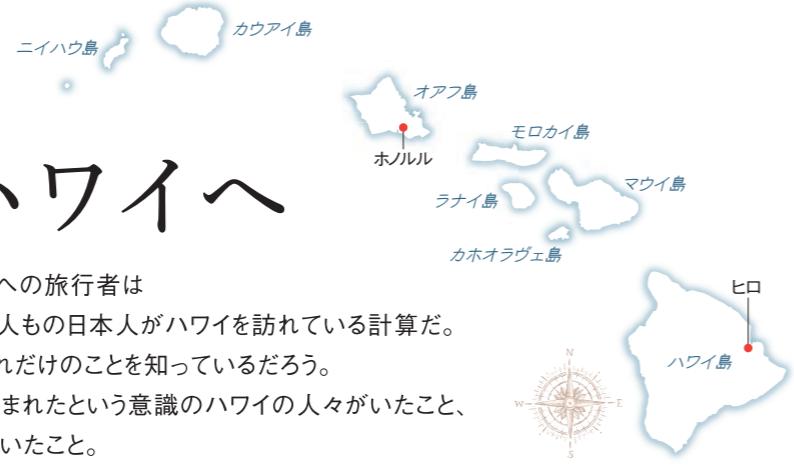
1:ホノルルにあるカメハメハ大王像。1810年にハワイを統一した。2:ワイキキビーチとダイヤモンドヘッドはハワイの代名詞。



楽園のもうひとつの姿

ガイドブックに 載っていないハワイへ

多くの人が憧れる南の楽園、ハワイ。現に日本からハワイへの旅行者は年間約150万人といわれている。1日にすると、約4,000人の日本人がハワイを訪れている計算だ。それだけ多くの人が訪れているハワイについて、我々はどれだけのことを知っているだろう。かつて日本から海を渡った日系移民のこと、戦争に巻き込まれたという意識のハワイの人々がいたこと、ハワイアンのアイデンティティがアメリカによって奪われていたこと。もしも、私たちがまだ知らないハワイがあるとしたら。ガイドブックに載っていない、もうひとつのハワイを探ってみよう。



3:ハワイには戦争にまつわる施設も多い。4:プランテーションでは日系移民が働いていた。5:オキナワンにまつわる石碑が今も残る。

CONTENTS

特集

楽園のもうひとつの姿

ガイドブックに
載っていないハワイへ P3

地図で寄港地をゆく[南イタリア編] P7

第二特集

世界三大仏教遺跡を巡る P9

PEACE BOAT NEWS

ロウイン副首相訪船 P14

アウシュヴィッツ

寄港地ツアー参加者インタビュー P15

世界一周いろいろランキングvol.3

「世界のビール」編 P17

PICK UP

ビールに合う世界の食事 P18

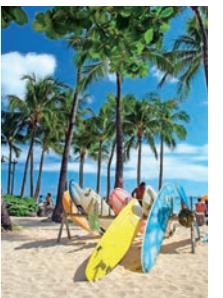


Ocean Dream

ハワイ・ホノルル港停泊中のオーシャンドリーム号

表紙の写真

ハワイ・ワイキキビーチ。
ホノルルには第95、99、
102回クルーズで寄港予定。





1:夕暮れ時のビーチは昼間と違った幻想的な光景を楽しめる。2:日系移民の当時の暮らしを知れるプランテーションビレッジ。3:オキナワンがふるまうサーターアンダギーは美味。4:日系移民のために建てられた神社が今も残っている。



レインボーアイランドといわれるだけあって島にはよく虹がかかる。



「レインボーアイランド」といわれる所以

ハワイの有名な「レインボーアイランド」といわれる所以は、「悲しい」と「うれしい」という意味で使われている。この「悲しい」と「うれしい」ことには、いろいろな意味がある。ハワイではよく虹を見ることができる。ハワイではよく虹を見ることができる。ハワイではよく虹を見ることが多いからだ。そのためハワイは「レインボーアイランド」という呼び名がついている。

ハワイがそのようにいわれる理由はもうひとつ。それはハワイがいろいろな移民で成り立っている島ということ。したがって、自ずと他文化を受け入れるというのが彼らの習慣になつていて。虹がよく見え、さらに彩り豊かな文化が混じり合つた場所こそが「レインボーアイランド」とハワイなのだ。

19世紀半ばから約100年にわたり、ハワイでは特に日系移民の割合も多かつた。今でもハワイの人々の親族内のだれかが日本に縁があつたり、日本の姓が残つたりするケースがある。ハワイの人々は日本人に対してフレンドリーという印象があるが、どちらかといふと日本が彼らのルーツの一部になっているからなのかもしれない。

日系人が移民として当時従事していたのはサトウキビ栽培。プランテーションの中の厳しい環境下で働いていた

たといわれる。その時の彼らの暮らしを知る施設として、ハワイズ・プランテーションビレッジという博物館がある。そこでは、当時沖縄出身の日系移民（通称・オキナワン）が、ハワイの人からだけでなく同じ日系移民からも別の民族として差別を受けていたことなど、過酷な暮らしを迫られていたことを知ることができる。そういう背景の中、頼れる先のないオキナワンらは自らのルツである沖縄の人々と繋がり続けた。後に沖縄の人々が戦後の食糧難に陥った際に手を差し伸べたのはハワイにいるオキナワンたちだった。こうして彼らが力を合わせて豚を送り、それが食料となり、沖縄の人々の命を繋いでいった。

このように、教科書にもガイドブックにも載っていないような物語がハワイにはあふれている。

ハワイ 人気土産&フード

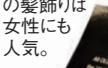


ホノルルクッキーはハワイのお土産の定番。



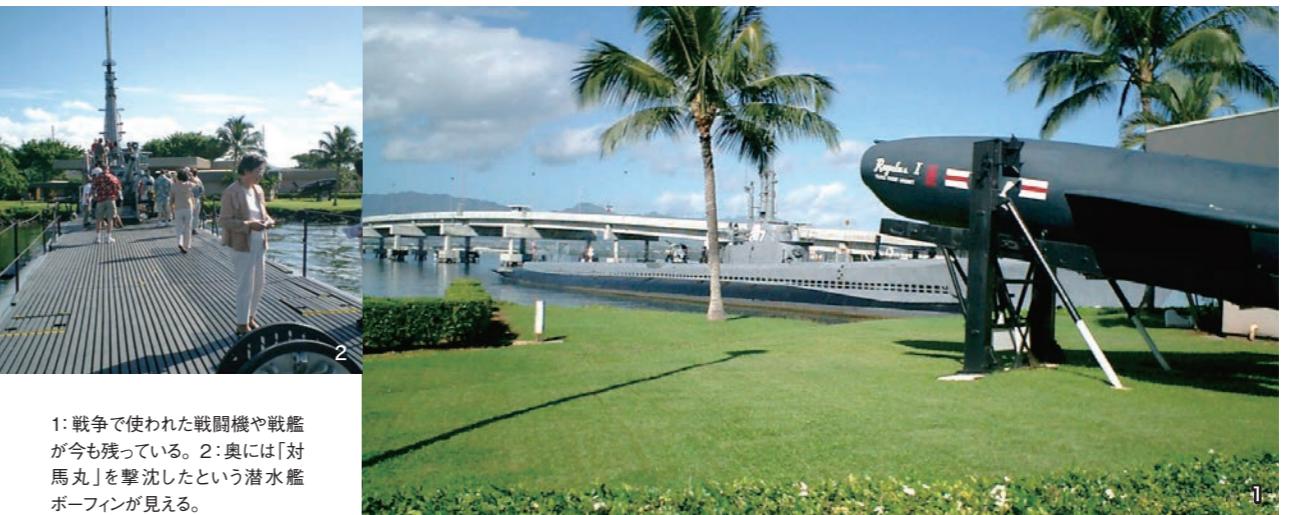
安くボリューミーなフィッシュタコス。

かわいい花形
髪飾りは女性にも人気。



忘れてはいけないハワイの歴史

日本時間にして1941年12月8日



1: 戦争で使われた戦闘機や戦艦が今も残っている。2: 奥には「対馬丸」を撃沈したという潜水艦ボーフィンが見える。

未明。日本海軍はアメリカ海軍の太平洋艦隊とその基地であったパールハーバーを攻撃した。この空襲をきっかけに、日本とアメリカの戦争が始まったわけだが、そこには先住ハワイアンをはじめ、アメリカに併合される以前からハワイに暮らしてきたさまざまな国からの移民がいたという視点を忘れてはならない。彼らからしてみると、故郷ハワイがアメリカによって占領され、基地が造られ、空爆をされた。つまり、日本とアメリカが戦争をしたことに対する、巻き込まれたという意識のハワイの人たちがいたということを知つておきたい。

当時ハワイで暮らしていた日系移民についても同様だ。労働者として海を渡ってきた日本人がいて、その二世にあたる人たちが白人社会の中で這い上がる攻撃があった。彼らにとって、生まれも育ちもハワイであるのに、アメリカでは敵だと言われてしまう。そこで彼らはそれを乗り越えるためにアメリカ軍に志願して、日系人部隊を結成することになった。そして彼らが送り込まれ



3: アリゾナ・メモリアルは今多くの人が追悼に訪れる。4: 施設内の博物館ではさまざまな展示が行われている。5: アリゾナ・メモリアルの下には戦艦が沈んでいる。

アロハ・アイナに込められたハワイアンの思い



3: 交流ツアーではハワイアンたちの話を聞くことができる。
4: すりつぶしたばかりのタロイモはほんのり甘い。

たのは、過酷な前線。結果として彼らは大活躍して英雄扱いされるものの、死傷率は非常に高いものだったという。ハワイで戦争にまつわる代表的な施設は二つ。日本軍の攻撃により沈没した戦艦アリゾナの船影の上に造られた追悼施設、アリゾナ・メモリアル。そしてその横にある、日本政府がその甲板で降伏文書に調印したという戦艦ミズーリだ。同じ施設の見学であつても、戦争に巻き込まれたという意識のハワイの人々がいたこと、日本とアメリカとの間で翻弄された人々がいたことを知つたうえで訪れたい場所だ。



1: 戦争で使われた戦闘機や戦艦が今も残っている。2: 奥には「対馬丸」を撃沈したという潜水艦ボーフィンが見える。

失われたハワイを取り戻そう。

1970年代、「ハワイアン・ルネッサンス」と呼ばれるハワイアンたちによるハワイ文化の復興を目指す運動が盛んになった。その運動の発端は、ハワイがアメリカの領土となつたことでフラやハワイ語が禁止され、英語が公用語になるなど徹底したアメリカ化により、彼らのアイデンティティが奪われていったことにある。

ハワイアンにとって、大事な合言葉がある。それは、大地を愛しましようという意味の「アロハ・アイナ」という言葉だ。自分たちの暮らしている「アイナ（大地）」を大事にすることが、小さな島の持続可能な社会をつくりなす教えるこそ、観光地化された今のハワイに必要なものだった。特に今見直されているのが、彼らの主食であるタロイモの栽培。交流コースで食べることができる、その場でタロをつぶした伝統食「ポイ」または「パイアイ」は、真のハワイを知るにはかかせない逸品だ。

ハワイアン・ルネッサンスが起きて40余り。「アロハ・アイナ」を合言葉に、もうひとつのお土産が広がっている。



1: ホノルルにあるビショップ博物館はハワイ文化にまつわる展示が充実。
2: 博物館外観。カメハメハ王家最後の王女の遺志を受けて造られた。



2



ハワイの伝統的料理。
紫色のペーストがタロイモ。

ハワイ伝統衣裳・グッズ



色鮮やかなハワイアンドレス。
マグネットは人気のお土産。ハワイらしさが満載だ。

今回、「ハワイ特集」についてご協力いただきました。



ノンフィクションライター
高橋 真樹さん

放送大学非常勤講師。国内外で取材し、持続可能な未来をめざす活動を伝え続けていく。著書に『観光コースでないハワイ』『樂園のもうひとつの姿』ほか多数。



地図で寄港地をゆく

南イタリア編



日本と同じように、南北に長いイタリア。北と南では、食事も違えば、風土も違う。ピースボートでは4回のクルーズにわたって南イタリアに寄港する予定だ。



拠点として街を築いたのが起源。地中海に囲まれているため、東西南北からのさまざまな民族による征服と衰退を繰り返し、今でも街にそれぞれの文化が色濃く残っている。中でも映画『ゴッドファーザー』の撮影に使われたマッシモ劇場は見ておきたい人も多いはず。

シチリア島でパレルモに次ぐ第二の都市が、カタニアだ。2002年に街全体が世界遺産に登録され、バロック様式の美しい建物が数多く並ぶ。街の中心にある1736年に彫刻家ヴァッカリーニによって造られた、エトナ火山に立ち向かう街の象徴といわれる象の噴水は必見。これら4寄港地、数行ではとても語りきれない魅力的な街ばかり。気になる寄港地は今のうちにチェックしておきたい。

長靴の形をしたイタリアが現在のような国に統一されたのは19世紀後半のこと。それまで小国に分裂していたため、その地方ごとに独自の文化が育まってきた。南イタリアは交易の拠点として栄え、いわば文明の十字路のような場所だ。チビタベッキアは、ローマにほど近い港町。この街は、約400年前に遣欧使節としてローマに赴いた仙台藩士倉倉常長が上陸した港もある。日本人信者が殉教したという教会もあり、内部の壁画に描かれた和服姿のマリア像が有名だ。

地中海で2番目に大きいサルデニア島にあるのが、カリアリ。先住民によつて積み立てられた巨石遺跡スルーラージは世界遺産であるからぜひ押さえておきたい。またカリアリ内陸部では羊の放牧が盛んなため、南イタリアでは珍しく、山の幸が楽しめる。

そして地中海最大の島が、シチリア島。その州都がパレルモだ。この街は紀元前8世紀にフェニキア人が交易の



イタリア[雑貨・みやげ]



太陽の恵みを浴びたトマトやオリーブオイルなどを使い、北イタリアに比べてさっぱりとした料理が多いのが南イタリア料理の特長だ。



イタリアに来たら食べたい「ジェラート」。



イタリアといえばピザは外せない。



カリアリ名物のオルゾ。別名「リゾーニ」と呼ばれるイタリアのショートパasta。



イタリア国内だけなく世界でも人気を誇るビール「ペローニ」は、まろやかな香りが特長。



新鮮なシーフードをふんだんに使ったパastaは南イタリアならでは。

Bagan ミャンマー・バガン遺跡群

季節によっては気球がバガンの空を舞う。



敬虔な仏教徒が毎日訪れる「シュエダゴン・パゴタ」。



飛行機の窓から見えるのは、ミャンマーの広大な緑の平原に広がる無数のパゴタ（仏塔）の数々。世界三大仏教遺跡のひとつであるバガン遺跡群までは、旧首都ヤンゴンから飛行機でおよそ一時間半。ここはかつて11世紀から13世紀にかけてミャンマー最初の王朝・バガン王朝が栄えた場所だ。イラワジ川東岸に建てられているパゴタはなんと大小あわせて3000近く。その数を聞くと、仏教を深く信仰し、バガングの栄華を支えた当時のミャンマー人の心の拠りどころだったことがわかる。パゴタに足を踏み入れると、当時の暮らしぶりをうかがい知ることができた。壁画やヒンドゥー教の影響を受けたことが見受けられる装飾が目に入る。まるでその当時にタイムスリップした



きらびやかな装飾が印象的な仏塔の内部。

ミャンマーの代表的な仏教遺跡といえば、もうひとつ。ヤンゴンにそびえる黄金の寺院、シュエダゴン・パゴタだ。仮塔の高さはおよそ100m。ヤンゴンの街中でもひと際目立つ存在だ。ここはミャンマー人にとって今なお仏教

ヤンゴンのシュエダゴン・パゴタの仏塔には約7,000ものダイヤやルビーなどの宝石が散りばめられているという。



11世紀の栄華を残す セピア色の聖地

クルーズは、ピースボートの原点でもあるアジアがテーマ。世界三大仏教遺跡であるバガン、ボロブドゥル、そしてアンコールワットを二度のクルーズで訪れる。それぞれに特長が異なる三つの仏教遺跡。かつての栄華を感じられるタイムスリップの旅へ出かけよう。

世界三大仏教遺跡を巡る

古来より独自の文化を育んできたアジア。仏教はじめ、ヒンドゥー教、イスラム教、キリスト教など、さまざまな宗教が混在する。その中でも仏教にフォーカスすると、世界三大仏教遺跡と呼ばれるものすべてがアジアにある。2018年3月出航予定の第97回



Bagan バガン／ミャンマー



Borobudur ボロブドゥル／インドネシア



Angkor Wat アンコール・ワット／カンボジア





Angkor Wat

カンボジア・アンコール・ワット遺跡群

写真に収まりきれないほど立派な遺跡が堂々とそびえる。



ガジュマルの巨木と一体化した神秘的なタ・プローム。

カンボジア
[グルメ&雑貨]



カンボジアのフォー「クイティウ」は絶品。



市場では魚の干物も。

クロマーという布は現地の人の必需品だ。

カンボジア北西部に位置し、シェムリアップから車で数十分のところにあるのがアンコールワット遺跡群。9世紀から13世紀にかけてクメール王朝が築き上げた迫力ある遺跡群だ。特にカンボジアを代表する建造物であるアンコール・ワット本殿の回廊には、ヒンドゥー神話にまつわるシーンが、精巧な浮き彫りで描かれている。そのきめ細やかさには誰もが見惚れてしまう。

また遺跡群というだけあって、世界遺産に登録されているアンコール地域内には数百にも及ぶ遺跡が点在する。中でも押さえておきたいのが、アンコール・トムだ。クメール語で「大きな町」を意味し、バイヨン寺院を中心として、



「アルカイックスマイル」と呼ばれる独特な表現が印象的。

クメール王朝が残した アジアの至宝

院、タ・プロームなど、見どころは満載だ。

アンコール・ワット遺跡群のおすすめ

は日の出と夕暮れ時の2回。早起きを

して拝むアンコール・ワットは、朝日を

バックにぼんやりとシルエットが見え

てくる神秘的な様相。夕暮れ時にな

ると、夕日が西のジャングルに沈んで

いき、朝とはまた違った光景に思わ

ず息を呑む。

アンコール・ワット遺跡群の観光のも

うひとつ楽しみが、シェムリアップの

街でのショッピング。思わず目移りする

ぐらいの豊富な品揃えのマーケットで

は、食料品だけでなく洋服やジュエ

リーなど、お土産には困らない。さて

急速に発展を遂げるカンボジアだが、

地域によっては未だに地雷が埋められ

ている事実も知つておきたい。ツアーリ

ヨットは、地雷除去作業の見学や被害

者の話を聞くことも可能だ。

1000年もの間 忘れられた謎多き遺跡



ピースボート初寄港となる、インドネシア・スマラン。スマラン」というと馴染みがないかもしれないが、首都ジャカルタと同じくジャワ島にある街だ。バスに乗つてスマランの街を抜け、のどかな農村地帯を眺めながら移動すること数時間。そこに待つているのは8世紀後半から9世紀前半にかけて建立されたといわれる世界最大級の仏教遺跡、ボロブドゥール遺跡だ。

このボロブドゥール遺跡、実は謎多き遺跡ともいわれる。この遺跡が見つかっ

たのは、1814年のこと。それまで実に1000年もの間、誰にも見つけられることができなかつたのだ。見つかった当時、この遺跡は近くにあるムラピ山の大噴火による火山灰の下に埋もれ、さらに密林に隠れていたという。他にも異教徒による破壊を恐れ隠されたという説もあるくらい、神秘に包まれた場所だ。発見されでから発掘調査と修復



遺跡の至るところにレリーフがある。

が行われ、1991年にはついに世界文化遺産に登録されている。



ピラミッド状の層になっていることがよくわかる。

Borobudur

インドネシア・ボロブドゥール遺跡

たくさんの仏像が祀られている。



無色界という大乗仏教の宇宙観である「三界」を表現していると考えられる。また1000年以上前に彫られたという美しいレリーフや、多くの仏像が祀られている内部は必見。これらのレリーフを順に進つて上まで登ると、悟りの道が開かれるというから、見学する際はそのことを心に留めておきたい。ピースボートにどうでも初寄港。謎に包まれた神秘の遺跡に、ついに足を踏み入れるときがきた。



インドネシア[グルメ&雑貨]



200万個の石が使われている。



当時の設備の多くが今もそのまま残っている。



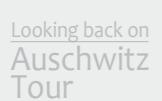
門に掲げてあるのは「働けば自由になれる」の文字。この門をくぐって人々は収容されていった。



収容所内には有刺鉄線が張り巡らされている。



日本人で唯一の公式ガイド・中谷剛さんの話を聞くツアー参加者。



地球一周グレースから11年 アウシュヴィツツ・ツアーリ いま考える

数百万人が犠牲になったといわれる「ホロコースト」。ピースボートの北半球を巡るクルーズでは、負の歴史を今に伝える世界遺産「アウシュヴィッツ・ビルケナウ強制収容所」を訪れるオーバーランドツアーを毎回予定している。このたび、第92回ピースボート世界一周クルーズに乗船し、アウシュヴィッツのツアーに参加した越田由美さんと、杉下依子さんにそのときのお話しを伺った。

2016年夏に出発した第92回地球一周クルーズ。その中でアウシュヴィツツを訪問するツアーに参加したきっかけは何だったのでしょうか。

ひとりの人間として継承しておく必要があると思つてツアーパートicipantを決めました。杉下・わたしは同じ職場にピースボートに乗つた人がいて、その人の話を聞いて乗船を決めたんです。それからオプ

アウシュヴィッツのツアーは、船を数日間離れて参加するオーバーランドツアーですね。その数日間はどのように過ごしましたか。

開かれ、ホリエントの背景を教えてもらつたうえで、ツアーに参加できました。特に宿泊施設で伺つたメリさんという女性のお話が印象的でした。

前にあたる2015年にピースボートの乗船を決めました。申し込んだときに行きたいと思っていたところが4つありました。そのうちのひとつがアウシュヴィッツです。実はいろいろな事情が重なり、一度は乗船をやめようかなと思つたのですが、いや、やつぱり行こうと決めて。その「やつぱり」というのは、ツアーレビューを申し込んだ年がちょうど戦後70年だったことにあります。わたしの親たちが体験した先の戦争について、わたしの代までは引き継いでいたほうがいい気がして。だからホロコーストのことも、→

ショナルツアーやのパンフレットをもらつたものの、どのツアーを選べばよいか最初はわからなかつたんです。そうしていると、ピースボートスタッフの方が最初の寄港地からひとつずつおすすめのツアーやを教えてくれて、特にアウェンティツだけはいろいろ考えるきっかけになりました。正直あまり知識もなかつたのですが、いろんなところを見てみたい、知りたいという思いで乗船を決意したこともあり、このツアーに参加することに決めました。

A portrait of a young woman with long brown hair and bangs, wearing a dark top. The image is framed by a circular border.

中みなさんにはそういうものを読む
するなかで、決して答えを言うのではなく、どう思いますかと投げかけてく
れるんですね。だから自分でもしつかり
と考えることができて、人間はこわいな
とか、だからこそしつかりしなくてはい
けないなと思つたことを覚えてます。

A circular portrait of a woman with dark, curly hair. She is wearing a dark, V-neck top and a thin necklace. The background is a plain, light color.

杉下：ツアーワーのときは常に自分との会話でした。事前に勉強会で映像を見て、いるからかもしれません、本当に静かな「こえ」が聞こえてくるような感じがしたんです。

越田：それ、すぐわかる。わたしのまわりでも同じことを口にする方々が多くて、ついには誰も収容されていません。そこにはもう誰も感じた人がいたこと、それを感じました。

ことばの意味はわかりましたか。

越田：実際に訪れた施設はもちろんなんですが、ツアーカーから戻った後、それぞれがどう思ったかを話し合う報告会が印象的でした。ホロコーストに対しても、各人各様の距離感、思い方があつたので、それがなぜなのかを突き詰めてみんなで話し合うというワークショップの場を設けたんです。自分の中だけでは消化しきれない重たい内容だから、あれは本当にいい経験でした。

ワークショップでは
どのようなことを話すのでしょうか。

ワークショップでは
どのようなことを話すのでしょうか。
越田…わたしは自分の孫と同じくら
い、20代前半の男性の学生さんと話す
機会がありました。お互い最初はうき
く伝えきれずに、意見の衝突があつたん
ですね。それでも彼はものすごく真剣
だったことを覚えています。最初は相容
れない感じだったのですが、本音をぶつ
けていくに打ち解けていくて、下船時に
は仲良しになつていたんです。人間、話
してみないとわからないなど、この年齢
になつて学びました。

ワークショップでは
どのようなことを話すのでしょうか。
越田…わたしは自分の孫と同じくら
い、20代前半の男性の学生さんと話す
機会がありました。お互い最初はうま
く伝えきれずに、意見の衝突があつたん
ですね。それでも彼はものすごく真剣
だったことを覚えています。最初は相容
れない感じだったのですが、本音をぶつ
けていくに打ち解けていて、下船時に
は仲良しになっていたんです。人間、話
してみないとわからないなど、この年齢
になつて学びました。

ツアーを終え、
ご自身で変化はありましたか。

杉下…わたしは、メアリさんの「いろんな
人のことを聴きなさい」ということが
ずっと心に残っています。それもあって、
今まで相手が本当はこう言ひたいのを

右されずに自分の意見を持つと思うえていたりする自分がいるんです。メリさんにお話してくれたことは、振り返ってから気づきました。わたしのようになるきっかけが欲しい方や、ホロコーストやアウシュビッツのことがどこか心に引っかかった方にはぜひ参加してほしいツアーです。

されたのでしょうか。



第92回ツアー参加者 越田由美さん(左) 杉下依子さん(右)

【ソーセージ】
ドイツも有名だが、チヨリ
ソーセージなど各地で楽しめる名物。



【セビーチェ】ペルーなどラテンアメリカの太平洋沿岸地域で主に食べられる。さっぱりとした新鮮な魚介類のマリネ。



【小籠包】上海や台湾といえばやっぱりこれ。口中に広がる肉汁は絶品。舌を火傷しないように要注意。



【生春巻き】日本でもおなじみのベトナム料理。ライスペーパーで巻かれ、タレにはナンブラーなどが使われている。



【ガーリック・シュリンプ】オアフ島のハワイアンフード。殻付きの海老をガーリックバターで香ばしくじっくり炒めている。



【チリクラブ】ほとんどのクルーズで寄港するシンガポールの名物。ビリ辛な味付けが特長。



世界のビールがあれば、世界のおつまみもある。

世界一周の船旅において、寄港地の楽しみのひとつに挙げられることが多いのが「世界のビール」。その国に行ったなら、ぜひビールと合わせて食べておきたい世界のおつまみの数々をご紹介。



【アサド】アルゼンチンのバーベキュー料理。味付けは主に岩塩のみで、炭火焼きでじっくりと焼く。



【タコス】メキシコを代表する料理。メキシコ人の主食であるトウモロコシのトルティーヤでさまざまな具を包んで食べる。



【フィッシュ&チップス】イギリスの国民的料理である白身魚のフライとフライドポテト。レモンを絞ると一層風味が増す。



【パクブンファイデーン】タイの空心菜炒め。ファイデーンとは、タイ語で「赤い炎」を指し、強火で炒めることに由来する。



【タパス】スペイン料理の定番として有名な小皿料理。ビールやワインのおつまみとして、バル(Bar)でよく出る。



【チキンライス】シンガポールご当地料理の代表。茹で鶏肉とその茹でた汁で炊いたご飯がセットになっている。

【世界一周のプロフェッショナル】
スタッフ120人に聞きました!

世界一周 いろいろランキング

地球一周を経験しているスタッフだからこそ、各国を比較して語られる地球一周ランキング。第三弾のテーマは「世界のビール」。みなさんが行ってみたい国のおつまみは入っていますか?



World Beer Ranking

Q.お気に入りの「世界のビール」は?



1 ヒナノ(タヒチ) 19票
「南太平洋の真珠」と称される、タヒチのビール。ライラガーナ感覚で飲みやすく、フルーティーな後味が残る。



2 コロナ(メキシコ) 16票
軽い飲み口で、すっきりとした後味が特長。塩を加えたり、ライムを入れたりして飲むのが定番のメキシコスタイル。



3 ギネス(アイルランド) 15票
しっかりとした苦味とクリーミーな泡が特長の黒ビール。現地でしか飲めないといわれる生ビールが絶品。



4 タイガー(シンガポール) 12票
シンガポールを中心に飲まれ、苦味はそれほどなく、すっきりとした味わいで、爽快感が感じられるのどしお。



5 レッドストライプ(ジャマイカ) 10票
ジャマイカ三大名物。アルコール度数は低く、暑い国のビールらしく、苦味もなくさっぱりとした味が特長。



6 バー・バー・バー(ベトナム) 9票
ベトナムの国民的ビール。さっぱりドライであります。泡の香りがよくうつとりする。正統派は氷を入れて飲む。



7 クスケニヤ(ペルー) 8票
王冠にはマチュピチの模様がプリントされており、そのまま缶バッジにするのもおすすめ。



8 アロハガー(アメリカ) 6票
口に含むと、ホップにしっかりとした麦芽の風味があり、コクとまろやかな苦味、甘味が強め。



9 シンハー(タイ) 5票
1933年にタイで生まれ、ホップが効いており、しっかりとしたモルトの風味が特徴的。



10 クレーベンブロイ(ドイツ) 3票
ミュンヘンで醸造される代表的なビール。「レーベン」は獅子、「ブロイ」は醸造所の意味。

船上百景 [洋上の出会い]



乗船者を楽しませるかのように何度もジャンプを見せてくれた。



この日は穏やかな海が広がっていた。



カメラを持って乗船者がデッキに集まつた。

稳やかな海をゆっくりと進むオーシャンドリーム号。横を並走するかのように黒い影が見える。「イルカだよ!」。デッキにいた子どもたちが声をあげ、次第にデッキに人が集まり始める。見てみると、まるで遊んでいるかのようにイルカが3頭いる。ジャンプしたり、交互に浮き沈みしたりする3頭の姿に、デッキにいる人たちも釘付け。カメラを片手にイルカを追いかけていた60代の男性に聞いてみると「出航してまだ1週間。10年以上ピースボートに乗つている」というスタッフの方も、こんなに近くでイルカを見るのは初めてだと言つていました。これから100日間の船旅が楽しみで仕方ありません」と期待に胸を膨らませていた。船旅だからこそ起こりえた洋上の出会い。素敵なお出会いは、寄港地や船内だけではなかつたようだ。

時をさかのばること14年前、私はホノルルに船で初めて訪れました。現地で買ったアロハシャツを着てダイヤモンドヘッドに登り、親指と小指を立て「ALOHA~」と言いながらハワイを堪能したことを覚えていました。その後、ピースボートクルーズに関わるなかで、人気観光地ハワイとは別の、太平洋の島Hawaiiのハレを学びました。

そんな私は最近ハワイの代表的な文化の一つであるフラ(フーラダンス)を習い始めました。

手の動きや歌詞の一つひとつ全てに意味があり、ハワイの歴史の奥深さを身をもつて感じています。でもフラは、ゆつたりとした優雅な動きのわりに実は手の動きが結構きついんです(笑)。目下の夢は本場のハワイで踊る...。

みなさんも機会があればこれから訪れる国の文化にぜひ触れてみてください。今まで遠かつた国を身近に感じる...ことがでありますよ。(S.N.)

イルカたちとの出会い

イルカたちとの出会い

